

熊本県立第二高等学校 平成23年度学校評価表

1 学校教育目標

本校の三綱領「自主積極・廉恥自尊・礼節協調」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。
また、これまでの教育方針に基づき、教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力がみなぎる存在感のある学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 生徒・保護者の期待に応える進路目標の達成
- (2) 三学科(普通科・理数科・美術科)の充実と特色ある学校づくり
- (3) 人権尊重と三綱領の精神を体現する生徒の育成と個性の伸張
- (4) 職員の資質及び組織力の向上と学校の活性化

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	自ら学ぶ態度の育成	「早朝学習」を通して、自学自習の習慣を定着させる。	進路指導部が企画し、各学年・教科と連携し運営する。個の学力に応じた課題の準備や指導を行う。	A	計画通りに実行できた。早朝学習をする意義についてくり返し指導する必要性を感じる。遅刻・欠席の生徒の固定化や、5分前着席の徹底などが課題である。
		読書習慣の定着	年間を通して「朝読書」を継続し、生徒の読書習慣定着率90%以上を目指す。	生徒と一緒に全職員も取り組む。担任や学年あるいは関係部署を通じて、定着化への指導を徹底する。	B	担任や学年の指導により、クラスによっては90%以上の定着が見られたが、完全ではなかった。これからも粘り強い指導をお願いしていきたい。
		SSHの推進	国際社会で科学技術をリードすることのできる人材を育成するとともに、SSHの研究成果の普及を図る。	地元大学を中心に研修や体験授業、外国人研究者による講義等を実施する。また、県内の高校や近隣の小中学校及び一般市民に対して成果の普及を図る。	B	大学での研修や体験授業、外国人研究者による講義、課題研究、科学的能力開発ゼミ等は計画通り実施することができた。成果普及に関しては、新規事業を実施するなどある程度は達成できたが、課題も残った。
		学校生活・学校行事の充実度	生徒会活動・部活動の活性化	生徒会による自主的で円滑な運営を支援する。部活動加入率を上げ、定着を図る。	B	ここ数年、女子の加入率が芳しくなかったが、改善が見られなかった。4月の段階で学年・生徒部を中心に呼びかけをしたい。
	開かれた学校づくり	情報の公開・発信	HPや学校通信で学校の現状や案内などを適切に発信する。(昨年度は負の評価が33%だったので、10%程度までに下げたい)	学校HP・進路だより・学年便り・二高会報を活用し、情報を定期的に発信する。	A	保護者の負の評価が15%だったので概ね目標は達成できた。このうち「わからない」と評価された方が5%いらっしゃるのは残念である。生徒から保護者へ確実に届くように継続して指導する必要がある。
		保護者・地域等との連携	PTA・学校評議員・同窓会等と連携し、協力体制を構築する。(昨年度は負の評価が35%だったので、10%程度までに下げたい)	年7回PTA理事会、年2回学校評議員会を開催する。行事等への参加案内を密に行う。	B	PTA理事・学校評議員との連携は例年通りできたが、一般保護者からの負の評価が28%で目標が達成できなかった。保護者からの信頼構築を図るために何が不足しているか全体で協議すべき課題である。
	安全管理の取組	健康教育の推進	家庭と連携し、性教育の充実を図る。	外部講師による講演会を企画し、保護者への参加を呼び掛ける。	B	慈恵病院の助産師2名を講師として招聘し講演会を開催できた。今後も保健だよりを中心に保護者への啓発を続けていきたい。
		施設設備の保守・点検	施設設備の危険箇所の早期発見・早期対応。	学校予算で対応できない案件は主管課と即協議して対処する。	B	鳩のフン害防止のネット一部設置、東門の門扉修理等は主管課から予算をいただくことができた。玄関前の駐車場・階段の設置にも一応めどを付けることが出来た。次年度は営繕・危険箇所の対応にはスピードをもたせるための先生方の情報提供を更に促したい。
学習指導	学力の向上	宅習(予習・復習)の習慣化	宅習時間の推移を把握し、家庭学習の指導に活かす。	宅習時間調査を1・2年(年3回)、3年(年1回)実施する。調査結果を踏まえ、担任は面談を行い、個に応じた家庭学習指導を行う。	B	調査を計画通りに実施し、担任が個に応じた面談を行うことができた。結果を分析して宅習習慣が改善されるように、教科・学年での継続的な指導に生かしていきたい。
	授業力の向上	授業評価の活用	授業評価を行い、授業改善に繋げる	生徒による授業評価を7月と12月に実施する。結果を踏まえ、指導方法の統一を図るための教科会を開く。	B	計画通りに実施することができた。次年度は、1回目の評価を受けて2回目までの改善のための課題を掲げ、その達成度を測りたい。
		研究授業の実施	お互いの授業を見せ合うことで授業力を上げる。参観率60%を目指す。	相互研鑽研究授業の取組を高める。	B	6月と11月に2週間の実施期間をとり、スムーズに参観が行えるようにいろいろな工夫を行ったが、参観率は50%を切った。来年度は、学校行事だけでなく、職員の意識調査や改革までも視野にいれて検討していきたい。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
進路指導	進路目標の実現	進路実現に繋がるキャリア教育の展開	進路講演やキャリアガイダンスを実施し、生徒に職業観・勤労観を身に付けさせる。	学年に応じて進路講演会やクラス別進路説明会を実施する。ガイダンスでは、1年は職業別、2年は学問系統別に講師を招聘する。	A	講演会後やガイダンス後には進路指導室で調べ学習をする生徒も増え、好影響を与えている。ただ、1つ1つの行事がイベント化していることが課題である。
		個に応じた進路指導の推進	効果的な進路指導が行われるよう、課外や模擬試験等を計画的に実施する。	全生徒を対象に三者面談を実施する。学年と教科、進路指導部が連携し課題の共有に努める。	A	面談前の事前指導、面談後の情報の共有化などがスムーズであった。また、模試後の分析などを通して、各学年の課題の共有化が進んだ。
	進路情報の発信	進路だより及び進路のてびきの内容充実	進路に関する適切な情報を、学年に応じて系統的に、生徒・保護者に提供する	進路だよりを年3回、進路のてびきを年1回発行する。また、職員研修を行い、三者面談・家庭訪問で活用する。	A	事前学習、資料活用の周知など十分に行い、計画的に実行できた。2年次に新たに保護者会を導入できたことは良かった。
生徒指導	基本的生活習慣の徹底	積極的な生活指導の展開、交通マナーの向上	生活に関する各種の指導を徹底する。	登校指導(毎日)、下校指導、自転車点検(二重ロックは85%以上を目指す)服装検査を実施する。	B	二重ロック、ほぼ90%を越えるまでに定着してきたが、自転車運転のマナー違反や、軽微な事故が絶えなかった。今後は県教委等の機関とも連携を深め、新たな交通安全教室や実技指導を考えていきたい。
	環境美化の取組	清掃・エコ活動の推進	校内及び学校周辺の美化活動を推進する。校内では、エコ活動を展開する。	美化委員による清掃点検(学期2回)を行う。	A	美化委員を中心に美化週間等も良くなってきた。また、部活動生を中心とした早朝清掃も定着しており、校内はかなりきれいになっている。今後は日々の掃除を更に徹底したい。
人権教育の推進	人権・道徳教育の取組	教職員・生徒の人権意識の向上	校内研修・人権LHRなどを通して、職員生徒の人権意識の高揚を図る。	人権教育推進委員会で研修について研究する。	A	年間計画に従い、校内研修を実施できた。また、さまざまな校外研修についても、職員へ積極的な参加を促し、職員や職場の人権意識の向上につながった。今後は生徒や職員の声を取り入れることが課題だ。
	特別支援教育活動の推進	不登校傾向の生徒をはじめとした生徒への支援活動	長期休業中に補講を実施し、個に応じた指導を行う。また、不登校傾向の生徒に対するサポート体制の充実を図る。	教務部で立案し、年3回(夏季・冬季・学年末)休業中に行い、生徒の基礎学力を養う。また、特別支援教育対策委員会の活動を通して関係職員との連携を密にする。	B	長期休業中の補講については、実施可能な限り開講できた。生徒支援として効果的であったと思われる。関係職員間の連携についてはもう少し改善していかなければならない点が課題として残った。
理数科・美術科の充実	理数科の充実	科学的に探究する能力と創造力の育成	科学の分野で将来活躍できる人材を育成する。	課題研究、課題研究発表会、実験・観察、大学での体験授業や講演会などの充実を図る。	B	課題研究発表会を無事に終えることができた。各学校の発表も年々充実してきており、講演会も含め生徒の反応はよかった。来年度以降の理数科協議会の在り方については今後の検討が必要である。
	美術科の充実	実技力の向上と広報活動の充実	制作・発表環境を整え、実技力の向上に努める。県下唯一の美術科のアピールに努める。	技能習得のための学習会、校内コンクール等を(年間3回以上)実施する。各種公募への出品を促進する。「美術科だより」を市内中学や保護者に配付(年間5回)、併せてHPの充実(隔週更新)を図る。	A	考査の都合により校内コンクールは中止したが、新たに校内実技模試を導入した。各種公募の成績も良好で、生徒の自信に繋がったほか、学校賞も複数受賞した。HPやマスコミを利用したPRも充実した。美術棟の環境整備、行事の検証と精選、美術科パンフレットの制作等を検討したい。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

4 学校関係者評価
学校関係者評価委員から次のような質問や意見がでた。○第二高校のホームページが、大変充実している。更新も頻繁になされており今後とも充実発展を期待している。○高校生の自転車のマナーが悪いが、学校ではどのように指導されているのか。交通安全教育の更なる充実を図って欲しい。○携帯電話が平成23年度から校内持ち込みを可能となった。情報モラルの指導もよりお願いしたい。○SSHの取組は頑張っている。科学教室など小中学生との交流もお願いしたい。○美術科生徒の活躍は素晴らしい。より多くの生徒が第二高校の美術科で専門的に学んで欲しい。○部活動への女子の加入率が減少している。部活動の活性化を期待している。○「授業力の向上」の項目で、研究授業の実施の自己評価が「C」であるが、先生方は一生懸命にされているようで、つい厳しい評価になりがちであることを考慮すると、「C」を「B」に上げてもいいと思う。○修学旅行のコースが変更になった。学校や生徒の実態に応じた変更であり、良かったのではないかな。

5 総合評価
自己評価では、評価「C」があったが、「B」になったことで、すべての項目が「A」と「B」の評価となった。項目別に分析していくと、進路にかかる分野は、自学自習の取組にはじまり、進路実績に至る過程まで評価はすべて「A」とよくその成果を上げたと言える。また、今年度、ホームページの充実により、情報の発信が「A」になったことは、良い結果として、今後はぜひ継続をしていきたい。美術科においては、生徒の持てる力を引き出し、多くの公募にて受賞する成績を残し、一日体験入学などの新規の企画を立てるなど、懸命な実践があり評価「A」であった。 一方、評価「B」の項目は、共通な要因として、あと一歩の取組不足が指摘されていて、特に学習指導の3項目、そして基本的生活習慣の徹底の項目がすべて「B」となってしまう課題として残った。

6 次年度への課題・改善方策
進路指導体制は、ほぼ確立されているので、難関大への合格者を増やすために、授業の質の向上が必須である。授業評価の活用方法、研究授業・公開授業への参観を増やす方策を担当部署で最優先に立案し、改善を図る。一方、生徒の宅習の習慣化に向け、面談を実施し、個に応じた学習指導を継続的に行う。交通安全教育については、喫緊の課題であり、関係機関との連携による安全教室の開催などで、常時生徒一人一人に喚起できる指導を機会あるごとに行う。SSHでは、県内の高校の理数教育の牽引役として、かつ近隣の小中学校への成果の普及を目指し、さらに研究を高める方向で進めていく。美術科についても、今年度の取組を点検して、より広報活動に努め、県下唯一の美術科としての役割を十分に果たす。来年度は、創立50周年の記念行事を催すこともあり、同窓会はもとより、一般会員PTAとの協力を促していく。ひいては、来年度を節目として、更なる発展を期するために、学習活動、特別活動を総体的に検証し、改善を図っていく。